第２回　ふるさとづくり有識者会議

日時：平成２５年５月８日（水）
１４：３０～１７：３０
場所：内閣府本府５階特別会議室

１　開会

２　木村総理補佐官出張報告

３　各委員より提案説明

４　討議

５　閉会

【配付資料】

資料１　木村総理補佐官提出資料
資料２　事務局提出資料
資料３　小田切座長提出資料
資料４　委員提出資料

資料１

ふるさとづくり有識者会議
木村総理補佐官提出資料

木村内閣総理大臣補佐官による宮崎県視察概要について

１　概　要

木村内閣総理大臣補佐官は、日向神話や伝説、史跡など地域固有の歴史的・文化的資源を活用し、郷土愛の醸成に繋げる「記紀編さん 1300 年記念事業」に取り組む宮崎県の現地視察及び地元首長やふるさとづくりに取り組む民間団体等との意見交換を行いました。

２　日　程

平成２５年４月１３日（土）から１５日（月）

３　視察先（別紙参照）

宮崎県高千穂町、日向市、西都市、宮崎市

４　意見交換における主な意見

・　ふるさとを愛する気持ちがまずある。ふるさとを愛せない人は国を愛せない。日本人としては、神話が共通の精神文化の源流。他国を一番に理解するには、その国の民族・宗教を知ることが重要。（宮司）

・　祖先が体験したことが神話に書かれている。昔は祭りを通して年寄りが語り伝えていた。地域に残る祭りは、地域のアイデンティティを共有できるもの。災害が起きた際には伝統的なきずなが生きる。（宮司）

・　小さな村で生活ができ、隣近所が支えあうきずながあり、伝統を守りながらお互い楽しい生活を送れるような村づくりをしていきたい。国に対しては、後継者育成に手助けをしてほしい。（五ヶ村村おこしグループ）

・　総合学習の時間などを活用して、小中高において「西都学」として、副読本を作成して、地域における伝統芸能、人物を含めて教えている。それにより、ふるさとに残ることに自信を持ってもらい、ふるさとを愛する気持ちにつなげたい。それは、海外に行っても、自分の自信・誇りになる。（西都市長）

・　21 の地域自治区で、地域のビジョンを作成させ、足元にある宝物を探してもらい、お互いが競争することでふるさとづくりにつなげていきたい。（宮崎市長）

・　よそ者、若者、ばか者で、実務レベルで真剣に取り組んでいる。地域を自分たちが動かすんだと考える思考をつけることが第一。海外に行って感じたが、日本が大好きな日本人が少ない。日本を大好きになることを国は呼びかけてほしい。（青島再勢プロジェクトメンバー）

・　市内 56 人でボランティアガイドをしているが、研修会を開いてまず自分たちが古事記を勉強しており、そのことがふるさとの誇りを醸成することになっている。（宮崎市神話・観光ガイドボランティア協議会）

以上

木村総理補佐官　宮崎県出張行程

月　日	曜	時　間	行　動　先	用　務　等
4.13	土	１６：１０ ～ １６：４０	高千穂神社 高千穂町大字三田井1037 TEL 0982-72-2413	後藤宮司との意見交換
		１６：５５ ～ １７：１５	天岩戸神社 高千穂町岩戸1073-1 TEL 0982-74-8239	視察
		１７：２０ ～ １８：００	神楽の館 高千穂町岩戸才原92-2 TEL 0982-76-1213	五ヶ村村おこしグループとの意見交換
		２０：００ ～ ２１：００	高千穂神社 高千穂町大字三田井1037 TEL 0982-72-2413	高千穂の夜神楽視察
4.14	日	９：５５ ～ １０：１５	美々津の古い町並み 日向市美々津町	視察
		１１：３０ ～ １２：３０	県立西都原考古博物館 西都市三宅5670 TEL 0983-41-0041	西都市関係者との意見交換
		１４：００ ～ １５：００	青島神社 宮崎市青島2-13-1 TEL 0985-65-1262	視察及び長友宮司との意見交換
		１５：００ ～ １５：４０	渚の交番 宮崎市青島2-233 TEL 0985-65-1055	宮崎市及び青島再勢プロジェクトとの意見交換
		１７：４５ ～ １８：１５	宮崎観光ホテル 東館２階「初雁」 宮崎市松山1-1-1 TEL 0985-27-1212	宮崎県知事との意見交換
4.15	月	８：５５ ～ ９：２５	江田神社 宮崎市阿波岐原町産母127	宮崎市神話・観光ガイドボランティア協議会との意見交換

↑　高千穂神社視察

↑　後藤宮司との意見交換

↑　五ヶ村村おこしグループとの意見交換

↑　美々津視察

↑　西都市関係者との意見交換

↑　宮崎市関係者との意見交換

↑　宮崎県知事との意見交換

↑　江田神社視察

郷土愛育む施策探る

補佐官、高千穂など視察

記紀編さん1300年

木村太郎首相補佐官は13日、本県が取り組む「記紀編さん1300年記念事業」を視察するため、高千穂町を訪れた。木村補佐官が担当する、郷土愛を育む施策や理念などをまとめる「ふるさとづくり有識者会議」（座長・小田切徳美明治大教授、13人）の一環。神話ゆかりの地を巡ったり、地元住民の声に耳を傾けたりして、今後まとめる報告書へのヒントを探った。14日は日向、西都市を巡り、夜は河野知事と意見交換。15日は宮崎市の江田神社を視察する。

有識者会議は安倍晋三首相の意向を受け、11日に初会議を開いた。6月中に中間報告、さらに時期は未定だが、最終報告を取りまとめる。その下準備として、地域の実情を目にする必要を感じた木村補佐官は神話に目を付け、「国産みの地」として知られる同町を最初の視察先に選んだ。

木村補佐官はまず高千穂神社を訪問。後藤俊彦宮司はこの4、5年で参拝客が急増している現状に触れ、「神話は日本人の心のふるさとになり得る」と強調。「情操教育の一環として、教科書の最初に神話を紹介してはどうか」とも提案した。

続けて岩戸の天岩戸神社に足を運び、近くの「神楽の館」で五ケ村村おこしグループ（工藤正任代表、9人）のメンバー、同町観光協会の佐藤哲章会長らと会談。これまでの取り組みや神楽の後継者不足などが話題に挙がった。

会談を終えた木村補佐官は「悠久の歴史を見聞きし、学ぶことが多かった。次の会議で報告し、中間報告にも生かしたい」と話していた。

高千穂神社で後藤宮司（左）の説明を受ける木村首相補佐官。郷土愛醸成に関する施策への道筋を探った

4/14（月）
宮崎日日新聞（朝）
29面

4/15
夕刊デイリー

高千穂など県内の取り組み探る

首相補佐官、ふるさとづくりの参考に

4/15 夕刊

郷土愛を育む施策や理念などを検討するため、政府が発足させた「ふるさとづくり有識者会議」を所管する木村太郎首相補佐官はきょうまでの3日間、本県の「記紀編さん1300年記念事業」の取り組みなどを視察した。県内各地の神話ゆかりの地を巡ったり、地域の伝統文化などに触れ、今後、ふるさとに関する施策展開の方向性について報告書をまとめる上でのヒントを探った。

来県したのは、木村補佐官や総務省の担当者ら3人。初日の高千穂町では、高千穂神社の後藤俊彦宮司から「情操教育の一環として、子どもたちにふるさとの歴史や日本の神話を知ってもらうことも必要」との意見を聞き、この後、木村補佐官らは天岩戸神社を視察。天岩戸温泉近くの「神楽の館」では、地元の五ケ村村おこしグループの工藤正任代表や町観光協会の佐藤哲章会長、町役場企画観光課の職員らと意見交換。同グループのこれまでの取り組みや、神話を活用した同協会や町の取り組みなどに耳を傾けながら、今後の地域おこしの在り方や夜神楽の後継者育成などについて質問していた。

意見交換を終え、木村補佐官は「初めて高千穂に来たが、今の時代に生きる皆さんがふるさとを大事にするために活動されていることを肌で感じた。報告書を取りまとめていく上での参考にしていきたい」と語った。

14日は日向市、西都市などを巡り、河野知事とも意見交換。15日は宮崎市の江田神社を視察した。

同会議は、小田切徳美氏（明治大学農学部教授）を座長に13人で構成。11日に首相官邸で初会合を開いており、6月中にも中間報告をまとめる。

後藤宮司の案内で高千穂神社を視察する木村首相補佐官

資料２

ふるさとづくり有識者会議
事務局提出資料

第1回ふるさとづくり有識者会議（平成25年4月11日）における小田切座長発言

○小田切座長

どうもありがとうございました。私の時間管理がまずくて時間がなくて大変申しわけございません。きょうは非常に多様な議論がされました。もちろん、論点整理するつもりはさらさらありませんが、項目として挙げれば４つぐらいの項目でしょうか。

１つは、ふるさとの要件。これは鎌田先生から出てきました。

２番目、ふるさと再生の意味。そもそもどういう状態がふるさと再生なのだという議論もあったかと思います。

ふるさと再生の手法。これは地域資源を磨くとか、人に注目する、人を対象とするという、かなり異口同音に皆様方共通のものが出てきたと思います。

４番目は、ふるさと再生の条件であります。それを支えるような条件とは一体いかなるものなのか。

大きく言えば、この４つが議論されたと思います。先ほどもございましたように、次回の会議、今まで議論されたことを中心にまとめさせていただいて、皆様方と再び議論させていただきたいと思います。

第一回ふるさとづくり有識者会議の議論を踏まえた論点整理

平成 25 年5月8日

1 「ふるさと」の要件

ふるさとの「定義」ではなくあくまでも「要件」、すなわち十分条件に近いもの。それぞれの人の中でこの要件の一つでも満たしていれば、その場所を「自分のふるさと」だと思うことができる。（第 1 回会議の委員発言のキーワードから抽出）。

（こころの拠りどころとしてのふるさと）

■自分自身の支えになる場所

・人間が最終的に帰属する場所
・自分にとっては日本（全体）がふるさとである
・ふるさとというものは心の中にあるものだと

■自分自身の誇りの源

・田舎の誇りをつくろう、ふるさとの誇りをつくろう
・（ふるさとの）３つの空洞化の基層にあるのは、誇りの空洞化
・（ふるさとを愛する気持ちは、）公共の精神や道徳心を培う

■安心・癒しを感じる場所

・「小盆地宇宙」母の胎内のような安心空間
・日本の「癒し空間」（聖地・霊場）は安全安心装置であり、防災拠点である
・森の（楠の洞に棲む）動物「トトロ」が日本の「カミ」の原像
・日本人の神は森のヌシ、神社の森は「鎮守の森」
・森をいのちの海と捉えて崇拝してきた日本文化、その象徴は「ドングリ」

（物質的・生活的・文化的基盤としてのふるさと）

■「生態智」が保たれている場所

・「生態智」＝自然と人工の持続可能な創造的バランス維持システムの技法と知恵
（・物質的基盤（モノ）…水、食糧、燃料、材木、ゴミ問題、ヒトの流れ
（・技術的基盤（ワザ）…芸術、技芸、学問
（・精神的基盤（こころ）…宗教、象徴性、呪術性、霊性
・地産地消の原点は、山・森(里山)・野原・田畑・川・海の連環の中にある

・地域における世代間の循環を再構築する
・未来に生きる「生態智」の探求実践
・1200年続いた京の都も同様の構造

■日本人の原像風景としての自然環境が残された場所
・日本の村・町の基本形は千年万年単位の記憶をもつ「小盆地宇宙」である
・文部省唱歌「ふるさと」に描かれる山と川（水）
・古事記「国偲びの歌」たたなづく青垣山籠れる倭しうるわし
・平坦な農村地帯とその外部の棚田・丘陵、そして山林と分水嶺につながる山地

■日本の伝統文化が保たれ、知的創造力を刺激する場所
・ふるさとの原像に不可欠な「祭り」
・日本の祭りの原型は、死者の「鎮魂」
・京都の地場と知の蓄積の力
・知的活力、知的創造力を未来のふるさとづくりの指標とする
・ひと、もの、情報が集散する盆地底

■誇りある生活の場として自律的な経済活動が営まれる場所
・誇りある生活の場の再生
・ふるさとで生産活動に従事する事業経営体の事業再生
・カネとその循環～新しい地域産業構造の構築

■人々の絆やつながり、交流が築かれている場所
・地域社会のつなぎ手～地域ネットワーカーをうまく活用していくことが大事
・若者、馬鹿者、よそ者がいれば町が動く
・人のネットワーク、連携が大事
・老人と子どもの施設の合体、「翁童文化」

(2)「ふるさとづくり」の意味

「ふるさとづくり」の意味とは、日本人としてのこころの拠りどころである「ふるさと」の価値をもう一度見直し、**１００年先の子どもたちに受け継いでいくこと**である。

日本人としてのこころの拠りどころをつくること

・帰属意識の醸成～ふるさとを愛し、帰りたいと思う（人が増える）
・自分が暮らす国や土地への誇りの回復
・（こころの中の）癒しや安心の場所の再生
・自然を尊重するこころの復活

■環境的意味

・日本人の原像に近い自然景観の保護
・物質や自然が連環する暮らしの再生
・地場の力の再生

■文化的意味

・日本古来の伝統文化の保存
・知的創造力の刺激
・世代間の交流による文化の伝承

■教育的意味

・公共の精神・道徳心の育成
・他者を敬う心の醸成

■経済的意味

・誇りある生活の場の再生
・自律的な地域産業構造の構築

■ネットワーク的意味

・時代にふさわしいコミュニティの形成
・世代間の交流
・地域間の交流

ふるさとづくり有識者会議　２５年度スケジュール（案）

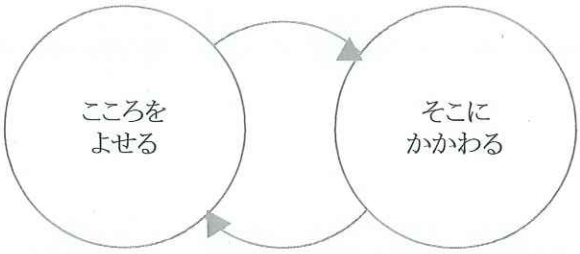
４月	第１回ふるさとづくり有識者会議(４月 11 日)
５月	第２回ふるさとづくり有識者会議(５月８日)
６月	第３回ふるさとづくり有識者会議(６月５日)
	第４回ふるさとづくり有識者会議（６月中下旬） 「中間とりまとめ」
７月	↓
８月	ふるさとづくり啓発資料作成
９月	
10 月	実践活動
11 月	↓
12 月	（必要に応じ有識者会議開催）
26 年 １月	
２月	↓
３月	ふるさとづくり有識者会議 （活動のとりまとめ）

資料３

ふるさとづくり有識者会議
小田切座長提出資料

■「ふるさとづくり」の意味

「こころをよせる」ことと、「そこにかかわる」ことのくり返し



こころをよせる場に対して、
人により、さまざまな要素や深さ、単位でかかわりをもつことにより
“かかわりのネットワーク”が縦横無尽に構築される

【留意すべき視点】

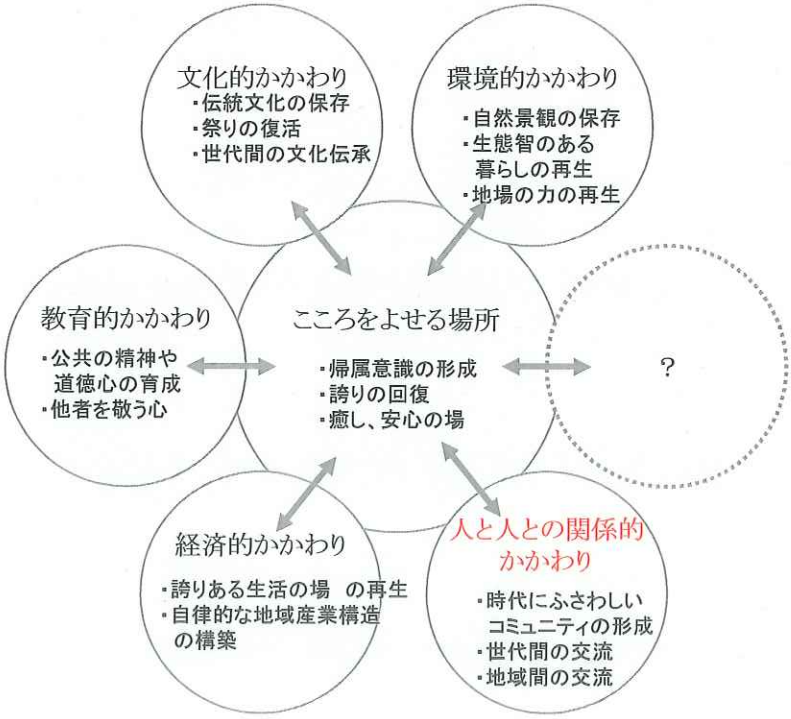
①「ふるさと」として、「精神的側面」と「実践的側面」の両者をともに重視する

・精神的側面＝伝統的な道徳心や倫理観による「ふるさと」
・実態的側面＝現実の人びとの営みによる「ふるさと」

②普遍的な価値観と革新的な価値観のバランス

・時代を超え、守っていくべきもの、残していくべきものが存在する
・時代とともに変化していく「ふるさと」像を提示する必要がある

■「ふるさとづくり」の諸要素－「かかわる」インターフェイス－



資料４

ふるさとづくり有識者会議　委員提出資料

①大南委員提出資料

②岸川委員提出資料

③木下委員提出資料

④殿村委員提出資料

⑤中貝委員提出資料

⑥濱田委員提出資料

⑦藤崎委員提出資料

⑧ 原 委員提出資料